

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|-----------|--|
| 事業所番号 | 1292300017 | | |
| 法人名 | 有限会社 かづみ | | |
| 事業所名 | グループホームあんしん勝浦上植野 | | |
| 所在地 | 千葉県勝浦市上植野925-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成31年3月1日 | 市町村評価書受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人NPO共生 | | |
| 所在地 | 千葉県習志野市東習志野3-11-15 | | |
| 訪問調査日 | 平成31年3月12日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・田園風景に囲まれた環境の中、住み慣れた地域にて共に支え合い、四季を感じる思い出作りに努めております。 ・目の前に広がる自社農地にて、季節の風を肌で感じながら米作りに参加し、耕作する楽しさ、食する喜びを感じ、安心出来る米を提供しており、食の安全を図っております。 ・季節に合った地域行事には積極的に参加し、地域の方と触れ合う事で、その人らしさを大切に、穏やかに過ごせるよう支援しています。 ・毎月の行事予定を明確にし、個別に発信して、家族様との連携を図っています。 |
|---|

| |
|--|
| <p>昨年3月から毎月1日に、今月の予定や前月行った行事や外出支援状況等を記載した「あんしんだより」を発行するようになり、その月の行事や運営推進会議の日程が明らかになったことにより、家族が日程調整して来訪する機会が増えた。運営推進会議で区長が変わるたびに事業所前に街灯を設置する話題が出ていたが、市の監査委員の方が参加するようになって、LEDの街灯が設置され防犯上にも非常に良くなった。今年度は、小湊誕生寺の稚児行列見学や、勝浦の文化交流センターKUSTEでの発表会やお茶会などに参加し、利用者には地域交流の幅を広げて頂くことが出来た。</p> |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 事業所様自己評価記入欄 | 外部評価、評価機関記入欄 | |
|--------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「個人を尊重し、安全で安心できる、楽しく美しい生活の場を、地域と連携の中で、和の心を持って確立する。」という理念を朝礼(申し送り)時、職員一同再確認し、意識して業務に当たっている。 | 法人の理念を踊り場やリビング・事務室等に掲示し、毎日朝礼時に唱和し確認合っている。実践面では、毎月1日の職員会議で理念に沿った今月の目標を決め、利用者の尊重や快適な生活の場の創出に結び付けている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | イベント事には積極的に参加し地域の方々とは触れ合っている。 散歩の際、地域の方々と会話を楽しみ、コミュニケーションを計り交流している。 | 地域の一員として自治会に加入し、利用者と一緒に地域の方々とお茶を飲む場を提供したり、祭礼の際に神輿が来る1時間くらい前に声掛けをしてもらえる。また、勝浦ビッグひな祭りや小学校の運動会の見学に出向いたりして、地域の一員として日常的に交流している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議に、地域の方々に参加して頂き、活動内容をお知らせする。 利用者様も会議に参加し、交流している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は、市、地域包括、区長、民生委員、地域の役員、家族等の参加を得て年6回開催している。会議の中で、市から遠出の外出はどうかとの意見が有り小湊誕生寺の七五三の稚児行列を見に行った。また、区長が変わるたびに話をしていた事業所前にLEDの街灯を付けてもらった。 | 運営推進会議の議事録に、出席者の名前等を記載することが望まれる。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市の介護課の担当者に相談に行き、意見を伺っている。 | 市の介護課へ介護保険の更新や報告、相談を行ったり、事業所や利用者の状況報告を随時行っており、不明な点等は電話で問い合わせるなど、利用者のケアの向上に活かしている。保護係からは問題のある利用者についてよく電話がある。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止に関する会議(3ヶ月に1回)を行い、見守り・目配りの強化をし、身体拘束の無いケアを実践している。 玄関は防犯と安全上の理由により夜間のみ施錠している。 | 身体拘束廃止に関する会議を3ヶ月に1回全員で議題を決めディスカッションをしている。特に言葉に関する拘束について「座ってて」「ちょっと待って」等の事例を挙げ話し合い、議事録を残し振り返り確認合っている。外部研修に参加した場合は、すぐに発表し全員で共有している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止について職員に教育するとともに資料等を活用し虐待防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 事業所様自己評価記入欄 | 外部評価、評価機関記入欄 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 外部研修の機会があれば出席させたいと考えている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用申し込み時に契約書等の説明を行い、理解していただいた上で契約を行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時、近況を報告し、意見交換要望を聞き、定期的に会議を設けている。 活動報告・行事予定を明確にし、毎月手紙にて発信している。 | 来訪時、ケアプラン作成時、運営推進会議時等には、利用者の近況を詳しく報告し、極力意見・要望等を聞くように心掛けている。昨年3月から毎月1日に発行する「あんしんだより」には、今月の行事予定、先月の行事・イベント・外出支援等の内容と管理者からの挨拶が盛り込まれており、家族からは非常に感謝されている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 随時、意見や提案を聞き、職員の意向や希望に沿うように努めている。また、全体会議を定期的実施し、職員の意見や提案を運営に反映している。 | 利用者の状況は、朝の申し送り時に職員間で意見交換を行い、意見・提案と共に申し送りノートに記載され、これらを運営に反映している。失禁する方を2時間おきにトイレ誘導しているが、眠りが浅く朝起きた時血圧が高いのでパットを使用し、回数を減らしたら血圧が安定した。などの例がある。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の勤務希望を受け入れるようにし、働きやすい状況になるよう努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている | 内・外部の研修に積極的に参加している。 研修資料をまとめ職員同士共有し、職務に活かしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 系列法人の運営する施設訪問を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 事業所様自己評価記入欄 | 外部評価、評価機関記入欄 | |
|-----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 表情から安心を感じられるように心がけ要望に添えるように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族との話し合いで不安、要望を聞き、関係作りに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 家族との話し合いで優先順位は何かを考え、状況に応じ提案するように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | コミュニケーションを取りながら、利用者立場に立った対応を実施している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 現在の状況を説明し、会話の流れの中で、本人と家族の話がスムーズにいくようサポートしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族以外の馴染みの方、近隣に住む親戚の方、友人の方、面会に来られるので職員が良い関係を築けるよう努めている。 | 日常の会話の中などから、利用者が昔よく行った場所や好きな食べ物を情報として持っていて、受診の帰りに海岸沿いを通ると、海の色が毎回違うとか波が荒いとか、なぎの状態など説明してくれる。姪が美容師で定期的に来て、地元の話をしながらかットをするので、利用者はそのたびに昔を懐かしがっている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者の相性を見ながら配慮し、レクリエーションを通じて関わり合いを持てるように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 事業所様自己評価記入欄 | 外部評価、評価機関記入欄 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所後、施設等に入所された方は、訪問を行っている。家族の方に手紙・電話などで関係を保っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 家族から意向を聞く等し、日々の会話の中から把握できるように努めている。 | 入所時の面談では、アセスメントをもとに利用者の思いや意向を確認する。中にはご自身の人生観を語られる程しっかりした方も居るが、殆どの方は好き嫌い等日常の生活に直結した話が多い。真の思いや意向については、入所後2~3カ月の間に、日常ケアの会話や表情、態度等から徐々に分かってくるケースが多い。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族からの聞き取りや、他のサービス事業所の情報提供書を参考に把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | バイタルサイン、排尿、排便状況の把握、歌唱、描画、料理等を勤めて様子を見る等して現状把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 記録や気づきを基に定期的な会議にて検討し、家族、本人の要望を取り入れ介護計画を作成している。 | ケアマネジャーは同一グループ事業所を複数兼務している為、週1回事業所に立ち寄り、半年に1回の改善に向けて、ケア記録等を基にモニタリングを行い、改善に向けた検討を常時行っている。ケアプラン変更時には意見を聴きながら説明する方が良いという判断で、家族には来所して頂き話をしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケース記録、申し送りノートを職員間で情報共有できるようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者の状況に応じて職員からの提案など取り入れ柔軟な対応が出来るように心掛けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 事業所様自己評価記入欄 | 外部評価、評価機関記入欄 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 散歩にてゴミを拾い地域の美化に貢献出来るよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医療機関だけでなく、利用者の必要とする医療機関への受診にも対応している。 | 提携医は勝浦の塩田病院だが、利用者によって診察のタイミングが違う為、職員が同行する通院支援を行っている。バイタルチェックは毎日職員が行い、記録しており、異常があればすぐにドクターに相談する。家族には診察後その日のうちに電話で状況報告をしている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 利用者の状態や気づきを個別記録やノートに記入し、看護師の訪問時に相談し適切な看護を受けられるように支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 医療機関とコミュニケーションを取れるようにし退院後に備えている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時、緊急・終末期の方針及び、対応等十分に説明し話し合い確認書を頂いている。医療機関と連帯を図り、かかりつけ医師の指示を仰ぎ、出来る限りの支援が行えるよう取り組んでいる。 | 看取りは家族の希望が有れば行うが、これまで事例は無い。延命処置については職員の対応にも落ち着きが出てきており、救急救命処置も消防署から指導を受けている。看取りは、今後要望が増えてくる可能性もあることから、法人研修には参加要請をしている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的に救命救急講習を受け、会議にて緊急時マニュアルを把握し、緊急時に備えている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防隊員指導の下、地域の方と共同し日中・夜間と想定を変え年2回避難訓練を行い、職員個々の防災意識を高めている。反復練習にて任務の再確認をしている。 | 年2回の訓練は継続して行っており、地域への参加呼びかけに対し、区長、区長代理の2名は参加してくれるようになった。利用者家族はなかなか難しい様である。食料、水の備蓄については準備が整った。断水時に備えトイレや洗面所にも常備している。運営推進会議でも欠かさず報告を行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 事業所様自己評価記入欄 | 外部評価、評価機関記入欄 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 職員が一人ひとりの情報を共有し、人格を把握しプライバシーを損ねない言葉使い、声掛けを徹底している。 | 前々任の管理者が作成したケース事例対応確認が出来るチェックシートが有り、職員個別に自己チェックを行っている。日常のケアの中では、言葉使い等本人が気付かないところで起きている可能性もあり、職員同士で注意し合うように心掛けている。 | ケース事例も時代の流れと共に変わってきている可能性も有ることから、チェックシートの内容について見直しを期待する。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 思いや希望を表せるように働きかけ、時にはこちらから提案をしながら自己決定が出来るように努める。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日課は特に決めていなく自由に過ごしていただいている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 持ち込まれた衣類の中で、組み合わせなどに配慮を心がけている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一人ひとりの好みを把握できるように努めている。その方の出来る範囲でお手伝いをお願いしている。 | お手伝いは出来る範囲でお願いをしているが、食べた後の食器は自分達で洗うようにしている。出来ない人には協力し合う仲が出来ている。年間行事での特別なメニューは季節感が意識出来るように利用者自身で用意するように勤めている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | メニューについては栄養士が管理しておりバランスの取れた食事を提供している。調理は職員が行い、利用者の個々に応じて形態を変えている。食事や水分の摂取量はケース記録に記入し管理している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 月1回、歯科医院の訪問診療を受けている。毎食後、口腔ケアを促し声掛け見守りし対応をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 事業所様自己評価記入欄 | 外部評価、評価機関記入欄 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄のパターンでトイレ誘導をしている。現在、トイレでの排泄が可能な利用者はオムツ、パッド等を使用していない。 | 利用者の出入りもあり、排泄の自立度については現状維持の状態である。一日1300から1500CCの水分摂取を行っていることから、その日の状態に合わせてトイレ誘導を行っている。車椅子利用者も自立の意識が高く、トイレ排泄を一生懸命行っており、排泄の自立に向けた支援を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分量の把握、食物繊維の摂取を心がけている。自然排便のない場合、医師及び看護師に相談している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴日・時間はある程度決まりがあるが、天候気温を把握し、その時の利用者の状況で対応している。 | 週3回の入浴を勧めており入浴介助は同姓介助、見守り中心で行っている。希望に応じて背中を流したり、シャワー浴を行う等の介助も行う。入浴拒否の利用者には時間をずらし、順番を変えて入って頂くなどの対応を行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 各居室にエアコンを完備し、室温調整を行い希望者に湯たんぽを貸出し、衣類・布団の天日干しにより安眠して頂けるよう努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方箋を参考にしたり、薬剤師に相談や助言をもらっている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 食事の準備、片付け、洗濯物畳み等をお願いしている。 歌や体操、外出等で一人ひとりにあった気分転換を心掛けている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ご家族に許可を頂き外出支援についてご協力をして頂いている。利用者の希望にそって買い物に同行している。季節を感じられるよう、地域のイベントに参加し交流を計っている。 | 今年度は少し足を伸ばして新しい場所に行くことに挑戦してきた。小湊誕生寺の稚児行列見学や、勝浦の文化交流センターKUSTEでの発表会やお茶会などに参加し、利用者には地域交流の幅を広げて頂くことが出来たと思っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 事業所様自己評価記入欄 | 外部評価、評価機関記入欄 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 利用者自らお金の管理をし職員が買い物に同行し支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望がある利用者には自ら手紙や電話のやりとりができるように支援している。 困難な方には、職員が利用者の意志を伝えるなどの対応をしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 日中くつろいで過ごされているリビングに季節の花々を生け季節感を目で楽しんで頂いている。玄関、廊下等にイベント時の写真を飾り居心地の良い空間づくりに努めている。 | リビングは、外出機会も増えたことから写真の掲示が増加している。勝浦の夏の花火大会等夜の外出も短時間ではあるが行っていることから、話題には事欠かない様である。利用者にとっては、家族訪問時も楽しい会話が生まれ、施設自体の活気が伝わってくる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 全室個室対応にてプライベートが保たれている。多くの利用者が過ごすリビングにはゆったりとくつろげる様ソファを設置し、写真や手作りポスターを飾り、利用者同士会話が弾む様、工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族の協力で、入居するまで使用していた品を持ち込んで頂いている。 | 居室内は、馴染みの物を自由に持ち込むことができるようになっている。家族来訪時には希望により一緒に泊まって頂くことも可能となっている。個別には殆ど使われていないものもあり、時々相談することも必要かと考えている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 安全を考慮した家具やソファの配置をし、動線をスムーズに出来るだけ自立した生活を支援している。 | | |